

## こちら編集委員会です

### 【もしもインパクトファクター(IF)を獲得しようとしたら】

#### ～ふたつの IF～

4月の編集委員会に引き続き、5月の編集委員会でも、Plasma and Fusion Research (PFR) 誌のインパクトファクター (IF) の話題が出てきました。「そもそも IF の獲得は必要なのか?」という意見もあり、IF を獲得するという既定路線があるわけではありませんが、もしも IF を獲得するとしたらどのようなことが起こるのか、議論になりました。今、トムソンロイター社に申請しても、最低でも3年待ちの状態であるとか、エディター陣の評価もシビアに行われるとか、最近の雑誌数増加により、今後は分野内の下位を落として入れ替えがあるとか。さらに、会議のプロシーディングはマイナス要素になりうるという気になる点も議論されました。このような議論の延長上に、IF 獲得を目指した場合について、二つの If (もしも) が挙げられました。

- If, もしも PFR 単独で IF を獲得しようとしたら
  - ・現状の PFR の編集体制や料金体系は維持できる。
  - ・現在の論文被引用数では、現実的に非常に困難。この点は改善が必要となる。
- If, もしも商用雑誌の傘下に入って IF を獲得しようとしたら
  - ・論文被引用数の増加が期待される (これまでの国内アーカイブ (J-Stage など) よりも強力)
  - ・IF を獲得できる保証はないものの、獲得の可能性は高い。
  - ・現状の自由閲覧の形態を維持すると投稿料金が現在の3倍になるかもしれない。
  - ・現在の手出版社のほとんどの雑誌はこの方式で IF を獲得している。

ここに挙げた項目や条件以外にも細かい事案があるのですが、どちらにしろ IF を獲得しようとする場合には相当な作業と変化が伴うことは間違いなさそうです。

次回6月号は6月25日発行の予定です。If, 読者の皆様が学会誌を興味深く読んでいただけたなら、編集委員一同望外の喜びです。

#### 【6月号予告】

解説：ITER テストブランケットモジュール計画の世界的動向

解説：プラズマを体感する ～百見は1体感に如かず～

講座 (第2回) 高密度相対論プラズマの粒子シミュレーション技法

## ■理事会からのお知らせ

### 総会提出資料の学会ホームページ掲載・閲覧について

このたびプラズマ・核融合学会では、第3回通常総会を2014年6月6日に開催いたします。理事会では、「第3回通常総会に提出される議案の関係資料」を学会ホームページに掲載し、会員各位のご意見等を代議員を通じて総会議事に反映できるように、事前に閲覧していただくことにいたしました。資料閲覧に際しては、下記の会員用パスワード (期間限定) をご利用ください。

「soukai14」

従来、総会提出資料は全正会員に郵送・配布しておりましたが、学会財政の節約を図る目的で、資料の郵送を代議員に限定いたしております。会員各位のご理解とご協力をお願いいたします。なお、従来どおり、資料の郵送を希望される会員は、電話・Eメール等で事務局にご請求ください。